

深海研究スーパー・キッズ育成プロジェクトin駿河湾 (海と日本2024)

報告書

目的

海洋専門リーダー人材育成のための裾野拡大 ※中長期目標での本事業の達成（ゴール）目標

小・中学生の段階で深海（生物）や海に携わる様々な人と出逢い、それを自分なりに理解し課題を考え、わかりやすい表現方法で人に伝える特別な経験をすることにより、自分が海洋専門リーダー人材として成り得ることへの気づきを与える。また卒業生に対しても企業連携事業を展開することで、継続的に学ぶ機会を提供する。同会としても静岡地区を中心とした海洋人材不足を解消することを目的とし、グローバル含めた海洋専門リーダー人材を発掘する土壤がある「しづおか」の地において着手することで、静岡を海洋人材リーダー育成の聖地としていく事を目指す。



目標

- ①深海研究スーパークリエイツ育成プロジェクト3期生の募集（10名程度）をしプログラムを実施し、完結させる。
- ②2024年度は参加者の視野を広げ、今後の展望として駿河湾以外に学びの場を拡大するため、第一歩として日本三大深湾を有する富山との連携を図る。
- ③卒業生（1・2期生）との関係を維持できるようなコミュニティを作り、今後の進路状況の把握や海プロ事業とのかかわりなどをサポートし、海洋専門リーダー人材としての育成を継続する体制を整備する。

2024年度実施内容のまとめ

実施①

深海についての学び



実施②

プレゼンの学び



実施③

発表会



座学およびフィールドワークを通じて、深海に関する知識インプットと、研究テーマ設定のための気づきを提供

自身の研究テーマおよび未来へのアイデアを、人にわかりやすく伝えるための方法をコーチング

これまでの研究成果と、未来への提言を自分なりの方法でプレゼン。自作の映像も活用した。

量的成果（事業の拡がり）

- ① 今年度から対象を中学校3年生までに広げた。中学生4名小学生7名計11名にて3期生プログラムを実施した。
- ② 富山湾キッズ連携。相互で2泊3日の合宿を行い、中日は合同プログラムとして実施した。
- ③ 卒業生のグルーピング。1・2期生に対しアンケートを取り、LINEオープンチャットにてコミュニケーションする場を提供した。

質的成果（次なる展開への芽）

- ① 応募総数は31件と大きく伸びなかつたが（前年度27件）、中学生が入ることにより、先導者の役割が明確になり、幅が広がった。また、過去、年齢的に諦めていた関心度高い子も拾えた。
- ② 富山湾プロジェクトが立ち上がったことにより、発想の幅が広がった。また、合宿を経て、チームワークが醸成されたのも、今までにない化学反応だった。
- ③ 16人21アカウントの登録（現在OB・OG25人いるので9世帯が未登録）。今後卒業生をハブにした企画を生成する予定なので、リアルでのリーストの機会を設けたい。

<地域・企業を巻き込み、ステークホルダーを拡大する>

増えてきたOBOGを活用しながら、認知度拡大とともに、WINWINとなるような地域・企業を巻き込んだ企画を実施していく。
並行して4期生育成と昨年度はじめた富山連携をより強化していく。

2025年度 改善点

**大村歩夢（小5）**

このプロジェクトに参加することを毎年心待ちにしていた。生物に関する好奇心・知識が豊富。

**小川真祐子（小5）**

毎回かぶり物などのグッズを制作し、参加。その中でもエビに関して興味あり。

**新村一乃真（小5）**

深海ステーション、潜水艦などどうやったら実際に深海へいって魚を見ることが出来るか模索中。

山村剛士（中2）

ラガーマンで今期のムードメーカー。水圧、エイサメなどに興味あり。

**鷲見陽向（小5）**

岐阜県から参加。海がない県からどのようなアイデアが出てくるのか期待

**鳥居巧（小5）**

魚だけではなく、生物の知識豊富。緊張しがちだが、今後どう心持が変化するか期待。

**森莉緒菜（中2）**

生徒会などを務めており真面目なお姉さんタイプ。今回のプロジェクトに参加し、海・魚が好きということを再認識している。

**柿島優（小6）**

動画制作に慣れており、学んだことと今後のアクトプットの掛け合わせが楽しみ。

**小川凌空（中3）**

デッサンが得意で、今まで食した魚は200種以上。未利用魚の食材活用などが発表テーマ予定。

**中野颯紀（小6）**

リュウグウノツカイやクリオネに興味あり。捕食の違いなどを深堀する予定。

**藤田里菜（中3）**

一番のしっかり者。CGやデザインなどが得意で色彩感覚や擬態色などをテーマに設定予定。

事業内容①深海基礎講座

沼津高專の特別同好会「知財のTKY」協力のもと基礎講座を4回にわたり実施した。第1回はMaOI機構において自己紹介やアイスブレイクを主にし、2回目は沼津港深海水族館へ。3回目は富山湾の静岡遠征の中日を合同プログラムとして実施。そして4回目として焼津長兼丸さんにご協力頂き、深海漁＆深海撮影プログラムを実施した。

**事業内容③1・2期生のグルーピング**

1期生・2期生OB、OGにヒアリングした結果、LINEが最も活用しやすいツールであったことからLINEオープンチャットを活用したペーパーを立ち上げた。キッズOBOG間での情報共有の場となっている。今後はここから出てきたアイデアなどを実走できるようにフォローアップ体制構築を目指したい。

**事業内容④グループワーク・個別プログラム**

アウトプットフェーズとして、①プログラミング＆ロボット製作@沼津高專、②MaOI機構にて成分に着目するグループワークを実施。その後個別に面談をし、一人一人の興味関心に寄り添った個別プログラムを実施した。

**事業内容②富山湾連携**

今期からスタートした深海キッズin富山湾との交流事業として、富山湾キッズは8/5-7静岡へ、駿河湾キッズは9/21-23富山への2泊3日の合宿プログラムをスタートした。

**事業内容⑤プレゼン動画制作講座→⑥成果発表会へ**

プレゼン＆動画編集プログラムを経て、成果発表会を迎えた。それぞれ研究し、発想した未来へのアイデアを個別の発表でした。



① 深海研究基礎講座（インプット）

成果報告



第1回深海基礎講座@MaOI機構（6/30）

実施内容

今回のプロジェクトの趣旨説明・大津先生による未知なる深海の可能性、駿河湾の紹介、その他自己紹介・アイスブレイクなど

課題・改善点

今年度で3回目の実施。例年は沼津高専を会場としていたが、今後社会連携を強めたるため、静岡市清水区のMaOI機構で実施。[鈴与高橋副社長](#)にお越しいただき、ご覧いただいた。例年、初回プログラムは時間超過してしまうが、今年は沼津高専の紹介をコンパクトにまとめていただき、オンラインで進行できた。



第2回深海基礎講座@沼津港深海水族館(7/6)

実施内容

沼津港深海水族館で普段は入れないバックヤードにて飼育員さんの話を聞いたり生物の生態観察などを実施。

課題・改善点

繁忙期となる夏休み前に実施することにより、バックヤード見学や飼育員によるガイド・質問など沼津港深海水族館に全面協力をいただき濃い内容となっている。[1期生土屋さん](#)・[2期生杉山くん](#)も来て、現在自分が行っている活動について報告した。



第3回深海基礎講座@戸田周遊→駿河湾フェリー（富山湾キッズ合同プログラム）(8/6)

実施内容

バスで沼津から戸田へ向い、深海魚ガールとして活躍する青山氏コーディネートのもと、駿河湾深海生物館の見学・深海魚の食事などをした。その後駿河湾フェリーで清水港に向かい、沼津高専の指導の下駿河湾の地形などを学んだ。

課題・改善点

富山湾キッズの中日として実施したが、キッズ同士のアイスブレイクが弱かったと反省している。もう少しコミュニケーションの機会を作ればよかった。大型バスで山道を移動したため、乗り物酔いする子が何名かいたので、対策を考えたい。



第4回深海基礎講座@焼津港・長兼丸の体験乗船(8/31・9/1→9/7・9/8へ延期して開催)

実施内容

長兼丸・沼津高専に協力いただき、駿河湾の深海魚漁に参加。水中ドローンによる深海の撮影体験を実施した。

課題・改善点

[台風の影響で延期](#)となり、予備日のイベント実施とした。長谷川さんの経験とこれまで培ってきた当社との関係で、早い段階で順延の判断・連絡をできたため振替開催もスムーズであった。台風シーズンに入る前と考え、8月末に設定したが、再考の必要あり。

②駿河湾×富山湾連携 富山合宿



1日目（ミラージュランド・魚津水族館見学）

実施内容

4時間程の電車移動を経て、ミラージュランドの観覧車から地形を見て、その後魚津水族館見学、シェルビースという廃校をリフォームした宿に宿泊した。



2日目（アクアポケット・ホタルイカミュージアム見学）※富山キッズ合同

実施内容

アクアポケットにて海洋深層水について学んだ。その後ホタルイカミュージアムにて水中ドローンとあわせて、富山湾で撮影した貴重な映像を見させてもらった



2日目（CHANGE FOR THE BLUEカードゲーム）※富山キッズ合同

実施内容

富山キッズと駿河キッズ混合でチームになりCFBカードゲームを実施。ごみ問題について理解を深めながら親交を深めた



3日目（魚津埋没林博物館見学）

実施内容

朝食前に富山湾を散策し、生物観察。その後、埋没林博物館を見学した。富山湾の歴史や自然が織りなす現象について学んだ。

新たな取り組み

課題・改善点

静岡駅発を予定していたが親御さんの要望もあり、浜松・静岡・三島の3か所出発にしたスタッフを配置できない駅もあったが、中学生がリーダーとして引っ張ってくれた。雨天で観覧車からの地形が見づらかったのが残念宿舎での過ごしが自由過ぎたため、今後工夫すべき点。

課題・改善点

海洋深層水のインプットは駿河キッズにプログラムとしては与えていないので、事前に焼津で見学しておけばよかった。この日も雨で予定していた富山湾クルーズ・水中ドローンに行けないのは残念だったが、富山事務局に工夫をしてもらい、過去映像で臨場感のある映像を見ることができた。

課題・改善点

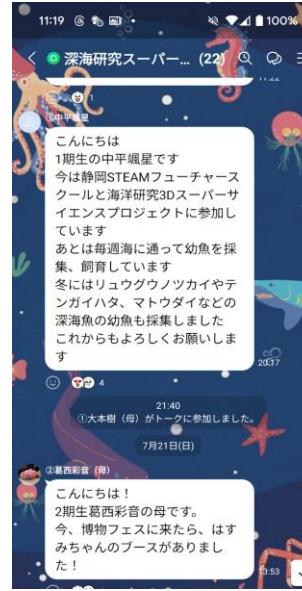
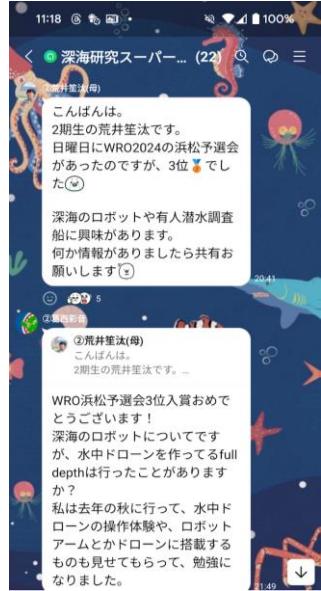
意味のある内容だが、今後の発表が環境問題やごみ問題に引っ張られる可能性もあるので交流という点も考えると、前半に実施できたらなおよかったと感じる。

課題・改善点

朝一はじめて雨がやんだので、魚津港を散歩・生物観察することが出来た。この3日間で最もキッズが生き生きしている時間だった。宿泊先が漁港近くでよかった。帰りに、鮮魚店で生のゲンゲを購入して持ち帰る子もあり富山の深海生物への興味関心を持ったことがうかがえた。

③卒業生の継続的な人材育成

成果報告



新たな取り組み

卒業生（1・2期生）との関係を維持できるような**コミュニティ**を作り、今後の進路状況の把握や海プロ事業とのかかわりなどをサポートし、海洋専門リーダー人材としての育成を継続する。

実施内容

卒業生（1・2期生）との関係を維持を目的に、**LINEオープンチャット**を使用し**情報交換スペース**を作成。海洋人材**コミュニティ**を目指す

※アンケート調査の結果**LINE**が使い勝手が良いとの回答が最多（合計アカウント数は22件）

成果

1期生5名、2期生9名が参加。
親御さんも含め22人アカウント。
海洋に関する**研究など近況報告**のほか、**イベント情報の交換**などのやりとりが行われている

課題・改善点

卒業生は中学生のため、スマホ保有やSNSに関して各家庭ごと環境が異なるため全員参加が難しい。また自発的な発言が必要なため、活発な**コミュニティ**と言いかねない状況。**本当の海洋人材コミュニティとして形成するためには具体的な活動が必要か。**

事業内容④ グループワーク・個別プログラム

成果報告



グループワーク①プログラミング&ロボット製作@沼津高専

実施内容

発想手法として、プログラミングの基礎を学び、深海生物の機能を活かしたロボットを製作した。

課題・改善点

今回のグループワークが10人参加と過去最大人数となったので、同じ深海生物に興味をもった人をペアにし、実施した。ペアにしたことで意見も活発になり、本人だけでは知り得ない新たな気づきなども発見できたので、よかった。



グループワーク②@MaOI機構

実施内容

MaOI機構の研究員の皆さんに遺伝子・DNA・ゲノムなどの基礎知識を教えていただき、実際にヒトやエビカニの分子系統樹を作成、サクラエビについて蓄積したデータを用いて説明を受け、実際にサクラエビの観察やDNA抽出を行った。

課題・改善点

こちらも前年度と比べ、参加人数が多くなったため、サクラエビの観察の際に写真撮影は禁止とし、オフィシャル素材を後で共有した。これにより、時間内にプログラムを遂行できたのでよかった。



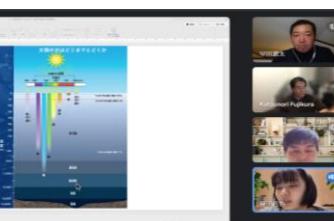
個別面談（オンライン）

実施内容

各家庭30分程度のオンライン面談を実施した。

課題・改善点

参加者によって発表に向けた解像度もばらつきがあるので進度に伴ったフォローを継続的していく必要がある。今期もご家庭によっては複数回の面談など臨機応変に実施した。



個別プログラム

実施内容

参加者の深く研究したい内容に沿った個別プログラムを実施した。

課題・改善点

参加者の進度により、ばらつきは発生したが、11名の課題に沿った講師をアサインした。事前にヒアリングシートを提出したので、講師の方もスムーズに応対していただけた。

個別プログラム詳細

成果報告

名前	学年	主なテーマ	アサイン講師
藤田里菜	中3	深海魚の色覚について	JAMSTEC 藤倉克則 センター長
小川凌空	中3	未利用魚を食べるには？	ぼうずコンニャク 藤原昌高 代表
森莉緒菜	中2	未利用魚を活用した新規事業	深海魚直送便 青山沙織氏
山村剛士	中2	ダルマザメの生態について	北海道大学 仲谷一宏 名誉教授
中野颯紀	小6	深海魚の成分を創薬等に生かす	名古屋大学 恒松雄太 准教授
柿島優	小6	深海魚×ゲーム スクラッチの高度な使い方	モノリズム 菅原範裕 氏
小川真祐子	小5	甲殻類の深海環境への適応	京都大学 下村通誉 教授
鷺見陽向	小5	シーラカンスの体のつくりや、習性 を知って未来につなげたい	東京工業大学 二階堂雅人 助教授
大村歩夢	小5	深海魚の新種を見つける	日本さかな専門学校 村崎謙太 講師
鳥居巧	小5	深海ゴミを効率的に取れる場所を探 して、深海をきれいにしたい。	JAMSTEC 藤倉克則 センター長（予定）
新村一乃真	小5	ヒカリキンメダイが光るなぞ	東京大学 大気海洋研究所 吉澤晋 准教授

事業内容⑤ プレゼン & 動画制作講座



プレゼン&動画制作プログラム（全3回）@静岡放送

実施内容

12/8・22・1/11と3回にわたりプレゼン&動画制作講座を実施した。

成果

最も自分が伝えたいことは何か、自問自答し、あぶりだした。その上でプレゼンの構成や人に効果的に伝わる手法などを学んだ。

課題・改善点

基本的に早めにスケジューリングしたので、ほとんどのキッズは参加できたが1回目、3回目にそれぞれ一人出られなかつた子がいた。オンラインで個別に内容を振り返り、他の参加者と差がないようにフォローした。

事業内容⑥ 成果発表会 & 修了式



成果発表会&修了式@Cafe&Restaurant Tembooo

実施内容

成果発表会を実施した。一緒に交流合宿を行った富山キッズにもオンラインで参加いただいた。本期からゲスト審査員をココリコ田中氏に変更した。

成果

リハーサルからすると、3期生全員内容がブラッシュアップされ、とても良い発表会となった。ココリコ田中氏をブッキングしたが、コメント力や雰囲気作りがとても上手だった。

課題・改善点

当日のリハ、本番ともに3期生は参加者が11名と昨年度より多かったため、全体的に時間が押した。



実施内容

表彰式、修了式を実施した。急遽2賞増えたので、海洋文化・研究拠点化推進協議会高橋理事、植田専務理事にプレゼンター対応頂いた。

成果

表彰式時、入賞者の名前が読み上げられると全員でハイタッチをし迎え入れ、3期生のチームワークの良さを感じた。

課題・改善点

予定していた4賞よりも多い6賞を与える結果となった。11人のキッズのうち半数近くが賞をもらう結果となつたので、この辺りは次年度どうするのか再度検討したい。

当初の撤収時間より、30分ほど押してしまった。



発表内容詳細

成果報告

発表順	氏名	在住	学年	発表タイトル
1	小川凌空	藤枝市	中3	未利用魚の種類と課題 ～未利用魚を利用魚に変えるには～
2	鷲見陽向	中津川市 (岐阜県)	小5	シーラカンス ～過去・現在・未来～
3	新村一乃真	浜松市	小5	ヒカリキンメダイがひかるなぞ
4	藤田里菜	三島市	中3	魚の視覚について
5	柿島優	三島市	小6	知ってる？深海の秘密
6	山村剛士	磐田市	中2	○○○○○型ロボット ～あらたなサンプリングの手段～
7	中野颯紀	富士市	小6	～深海資源から薬をつくるには～
8	鳥居巧	島田市	小5	プラスチックゴミは深海生物にどう影響しているか
9	小川真祐子	静岡市	小5	ダイオウグソクムシから考える深海の時間
10	大村歩夢	静岡市	小5	深海魚の新種を見つけるためには
11	森莉緒菜	島田市	中2	未利用魚を知ろう！ 食べて触れて学ぶ新しい授業への挑戦

修了式後は御礼のメールやお手紙も頂きました

歩夢は毎回深海キッズの日を楽しみにしていて、数えきれないくらいの貴重な体験をさせて頂き、我が子が好きな事を全力で取り組む姿を見ることが出来て、親としても幸せな時間を頂きました。

特に合宿と深海漁船は本当に楽しかったようです。

また、正直、学校では興味が偏っていて稀に浮いてしまう事もありますが、それが全く無いどころかキッズの中に入ると寧ろ影が薄くなり、才能豊かな他のお子さんたちに驚かされました。

今回何にも捉われずに好きなものを好きと全力で話しができる仲間が出来て一生の宝物になると思います。

発表ですが歩夢は小学校の授業でタブレットに触れた事があるものの、それ以外スマホも含めて触ったこともなく、内容はもちろんですがパソコンに大苦戦しました。でも、どうにか頑張って形にして、達成感を得られたようでした。内容も未熟ではありますが、頑張ったと思います。口には出しませんが、やはり自分としては頑張ったと思う分、賞に届かなかったのは悔しかったようで、少し元気がありませんでした。

ただ、それでも含めて人生においては貴重な財産ですので、これをバネにどう行動するのか見守っていこうと思っています。

歩夢も含めて子供たちはどんな大人になるのかどんな未来を歩むのかはまだわかりませんし、今思っている道ではないかもしれません。でも、今回得られたたくさんの事はきっと未来に大きなプラスになると昨日の発表を見ていて思いました。

お世話になっております、小川です。

7ヶ月の間大変お世話になりました。

このような機会を頂いたことに、大変感謝しております。

成果発表会ではそれぞれの発表が終わるたび、また賞をもらつて

席に戻る時に、深海キッズの全員がハイタッチしてねぎらつて

いるのを見ました。

活動を通して素晴らしい仲間ができたことを、なによりも嬉しく

感じました。ありがとうございました。

講師やスタッフの方々にもよろしくお伝えください。

昨日の深海キッズたちの発表は、どれも素晴らしく、

みんなに満点花丸をあげたいと思いました。

最初はきっと、何も分からず、できない子達を、ここまで

引っ張っていってくださった早川さんをはじめとするスタ

ッフの皆様、大津先生に大変感謝しております。

本当にありがとうございました。

うちの子からも、最初の自己紹介で頭が真っ白になって泣いてしまったというは聞いておりました。

そのため、昨日の発表会は、頭が真っ白になんでも対応できるように、たくさん練習しようと言って、臨みました。

田中さんの質問には、面食らって素が出た部分はありましたか、

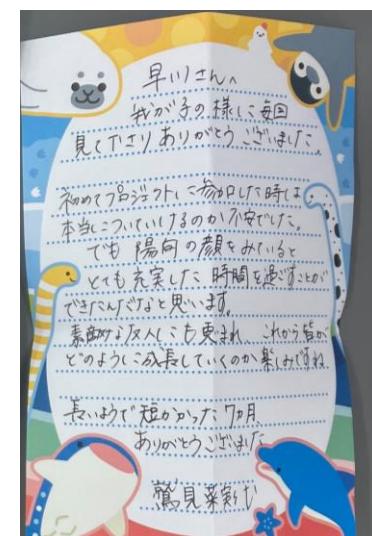
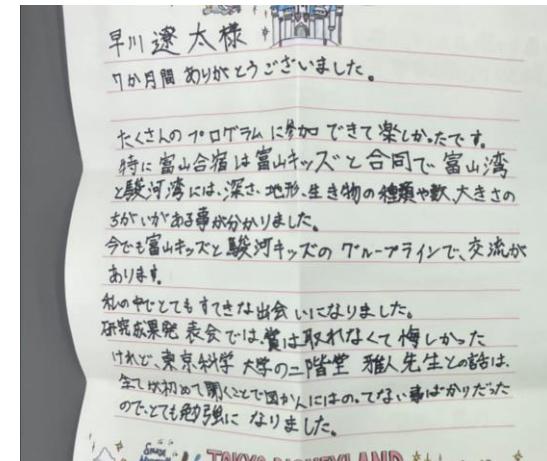
元気いっぱい発表できて、親子共々、安堵しております。

他の子達も、ここに至るまでに、きっと色々なことがあったと思います。みんなが、このプロジェクトを通じて、大きくなる

長できたことを大変うれしく思うとともに、これが終点ではな

く、次へつなげられるよう、親として、サポートを継続したい

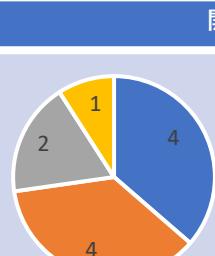
と考えております。



アンケートの結果（抜粋）

参加者向けアンケート

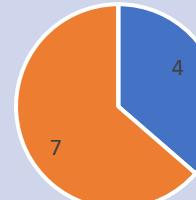
Q11_あなたは、自分のやりたいことや興味・関心を見つけることが得意ですか？



得意な割合：72%

開始前

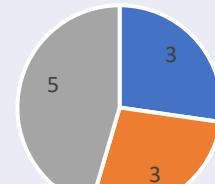
物事への
興味関心
28% UP



得意な割合：100%

2回目 とても得意
2回目 人よりは得意だと思う

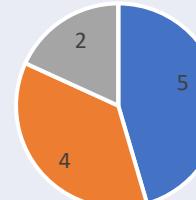
Q15_あなたは、自分の考え方や気持ちを、人の前で表現することは得意ですか？



得意な割合：54%

1回目 とても得意
1回目 人よりは得意だと思う
1回目 あまり得意ではない

プレゼン力
27% UP



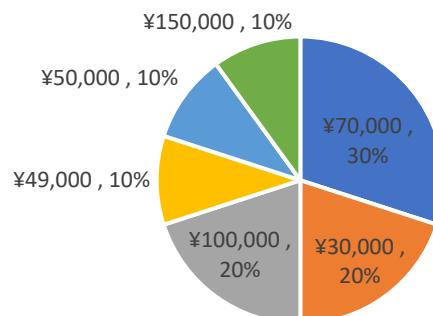
得意な割合：81%

2回目 とても得意
2回目 人よりは得意だと思う
2回目 あまり得意ではない

保護者向けアンケート

Q13-1_自分がこのイベントに参加費を支払うとしたら、いくらなら良いと思いますか？

金額	人数
¥70,000	3
¥30,000	2
¥100,000	2
¥49,000	1
¥50,000	1
¥150,000	1



最高評価金額
150,000円

平均金額
71,900円

メディア露出



小中学生駿河湾の神秘学ぶ

「駿河湾の深海・潮流」
「深海研究キッズプロジェクト始動」

静岡新聞 7月4日(木) 「県総合面」

M a O I 機構でプログラムがスタート。サクラエビの生態解明に挑んでいるM a O I の紹介や、沼津高専の研究チームによる活動報告があった。今後、深海基礎講座、富山湾について学ぶ宿泊プログラムも予定している。



放送日時／内容

SBSテレビ 2024年7月1日(月)
「JNNニュース」 11:50 (正味70秒)

24年度のプロジェクトがスタート、駿河湾の基礎を学ぶ。次の世代の海の専門家を育てる。

掲載日時／内容

静岡新聞 7月4日(木) 「県総合面」

M a O I 機構でプログラムがスタート。サクラエビの生態解明に挑んでいるM a O I の紹介や、沼津高専の研究チームによる活動報告があった。今後、深海基礎講座、富山湾について学ぶ宿泊プログラムも予定している。

放送日時／内容 =他社連携=

テレビ静岡 7月23日(火)
「ショット！いいタイム」 11:24 (正味80秒)

沼津港深海水族館の裏側を見学。深海にまつわる様々な研究や動画作成に挑戦していく。

メディア露出

放送日時／内容

SBSテレビ 2025年1月26日(日)
「NSTA」内 最新ニュース 17:30~ (正味60秒)



成果報告



掲載日時／内容

静岡新聞 1月27日(月) 朝刊「県総合面」掲載

深海研究 小中生プレゼン

静岡で 大賞に藤田さん(三島)
発表会



次世代の海洋リーダーを育てる「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」(一般社団法人日本財団主催)の研究成果発表会が、26日、静岡市駿河区の静岡新聞放送会館で開かれた。静岡県内外の中学生11人が登壇し、魚の観察について研究した三島市立北中3年の藤田里菜さんが大賞に選ばれた。

プロジェクトの一環で今月から7カ月間、深海に関する講座や各地でのフィ

ールドワークなどを通じて深海に関する知識を深めてきた。発表会では、それだけ固めのある研究テーマを認定され、学びを未来につなげることとしていくを掲げた。未利用魚の活用方法や深海に関する研究を発表する児童ら=静岡市駿河区の静岡新聞放送会館

乃2別賞
真△
浜日森利士岩松城北小新田村△中海川凌小一中特野と凌小一中

小山眞佑子△静岡草小千賀賞
日本プロジエクト賞△小川見貫賞
空△静岡県中3
日本財団賞△小6
三島市立北中3
ラズの小学生10人オブレゼンティショーン賞
アコントを取り入れてユーモアを交えたりと、癡笑方法で富山県で同様に深海についても工夫を凝らした。静岡で発表した「富山キッズ」の小学生が、このほかの受賞者は次の通り。

メディア露出

<他のプログラムの取材連携>

①海のお仕事体験 静岡市長×海野常務@鈴与（いこーゆ）



放送日時／内容

SBSテレビ 8月21日(水)
「JNNニュース」11:50
(正味100秒)

放送日時／内容

SBSラジオ 8月21日(水)
SBSニュース 12:58 (正味100秒)

掲載日時／内容

静岡新聞 8月21日(水)
「地域面」

②海と日本プロジェクトin静岡県（テレビ静岡）



駿河湾 海底模型で構造学ぶ



放送日時／内容

SBSテレビ 8月6日(火)
「お買い物いいね」9:55
(正味30秒)

掲載日時／内容

静岡新聞 7月31日(水)
「地域面」

新たな取り組みの振り返り

変更点

- ①中学生までに応募を拡大した。
- ②富山湾キッズとの2泊3日の交流合宿を実施した。静岡来訪を前半、富山訪問を後半と位置付けた。
- ③卒業生のグループチャットを作った。

狙い

- ①発表内容のレベルアップなど。
- ②駿河湾だけではない、広域な発想を与える。
- ③今後の企業連携などのベースを作りたい。

結果

- ①今まで参加したくても出来なかつた子を拾えた。また思春期に入つてもやもやしている「好き」を再燃できた。中学生が小学生をフォローする場面も多くみられて、よかつた。
- ②プログラムの進捗も考えながら、前半後半に各エリアとの同じ部分・違う部分を軸に内容を検討した。結果として広域な発想だけではなく、お互いの友情や仲間意識生成にもつながつた。自発的なグループLINEの生成などもあり、最終的なチームワークの良さにも大きく寄与した。
- ③卒業生にアンケートをとり、LINEオープンチャットを活用したオンラインコミュニティをつくつた。今現在自分が興味関心をもつてゐる事やイベント情報などの発信交流の場となつてゐる。

課題

- ①中学生まで応募範囲を広げて、コミュニケーションの広がりがみられるので、よかつた。
- ②基本的にはすごくよかつた。今後の発表への活かし方などは引き続き模索したい。交流に主眼を置くのであれば、はじめにアイスブレイクの場を厚くするべきだった。
- ③場を提供した点はよかつた。1期生の参加率の低さが気になる点。ここから実際にグループを活性化するためには、具体的なアクションプランを作らなくてはいけないと感じている。

体制

課題

今期から申請団体がシヅクリから海洋文化研究拠点化推進協議会に変更した。今まで探求教育に軸足を置いていたが、海洋専門リーダー人材育成を目指すうえで静岡市清水区の再開発や企業連携など今後注力していきたい意図。

運営



事務局である静岡新聞社の人事異動により、企画メイン担当や営業担当に変更があった。幸いにも熱量をもった担当が取り組んでいるため、特に問題はないが、属人化せずに対応できると尚良い。

広報



今期は今まで一番募集期間をしっかり取れ、且つ中学生まで対象年齢を広げたので、応募数が増えると想定していたが、思いのほか応募数が伸びなかった。

事業内容
(富山湾連携)

今年度より深海キッズin富山湾がスタートしたことから初の試みとして、富山湾との交流事業を実施した。具体的には富山キッズは静岡へ、静岡キッズは富山への二泊三日の合宿プログラムを実施した。富山湾事務局とお互いの進捗状況などを共有しながら静岡来訪時を前半、富山来訪時を後半という形でプログラムを構築できた点はよかった。

事業内容
(卒業生活用)

今年度卒業生全体にアプローチし、はじめて公式のコミュニケーションの場を作成した。アンケートでは最も使いやすいツールがLINEであったことからLINEオープンチャットにて卒業生ページを作成。2024年度の申請としてはグループングのみだったが、時間が経つと熱量が薄れている可能性が高いと感じた。実際1期生の参加率が低い。

改善案

通常のプログラム以外で卒業生を活用し、より高次のプログラムを生成していくことにより、卒業後も関わりを持ち続けることで継続的な海洋専門人材の育成につなげる

事務局内でのイベント意図や過去の流れなどをしっかりと引き継いでいくことが重要。今のところはできている認識。

イベントの性質上、量より質を求めているため、多ければ良いというものでもない。今回は特に深海や当プロジェクトに興味関心があり参加したいというキッズが多く、質は担保できていると考えている。おそらくHP内に過去の発表動画などをリンクさせているため、深海（海洋）好きが中心に集まつたのではないかという分析をしている。より幅広い人材募集のためには、深海×〇〇などかけ合わせを意識してみて募集してみても面白いかもしれませんと感じた。

静岡開催と富山開催の計2回で一つのプログラムと考え、富山事務局とMTGを重ねて企画を生成したが、もっと静岡開催時にアイスブレイク・交流の機会を作ればよかつたと反省している。

子供たち同士で連絡先を交換しあいに刺激を受け、自発的に交流をしていた点はよかったです。

リブーストさせるためにはやはりあらかじめイベントやるべき事業など具体的なアクション・活動が必要と考えている。3期生は合宿もあり、今までにないチームワークがあるので、この熱を持続させるような企画の実施とコミュニケーションの深化を図りたい。